

PBL 国際協働型英語アクティブ・ラーニング におけるグループ学習で活用できる 英語ディスコース・マーカの研究

Research on English discourse markers that can be used in group learning in PBL international collaborative English active learning

吉 田 信 介
Shinsuke Yoshida

The author has been practicing a project in which high school students and university students studying English as EFL in the Asian region form an international collaborative team to make presentations. There, PBL international collaborative active learning has been practiced in which cultural and logical conflicts are resolved and problems are resolved while using ICT. There were eight categories in the questionnaire about group work used in this international collaboration project. Among them, we proposed the presentation of discourse markers as English expressions that can be used in the categories of “communication between group members” and “consensus procedure by groups”, which had low scores, and their use in educational settings. As a result, the author was convinced that they could utilize these in actual exchanges to carry out communication that contributes to strengthening teamwork.

キーワード

Group Learning, PBL, Discourse Markers, International Collaborative Learning

1. はじめに

Society 5.0、および、SGDs をキーワードにこれから益々変化していく社会におけるグローバル人材育成のためには、どのような状況に置かれても汎用的に役立つ能力・態度・志向＝ジェネリックスキルを習得させる必要がある。そのためには、アクティブ・ラーニングやラーニング・ピラミッドをはじめ、社会的構成主義を基軸としたインストラクショナル・デザインの構築が求められている。このような状況に鑑み、高校・大学の授業においても「何を教えるか」

よりも「何ができるようになるか」への転換が必要であり、生徒・学生自らがグローバルな視点で課題を発見し、異文化の相手と交渉し、結果について説得力をもって外国語で発表できることが求められている。

しかしながら、そのような実践的コミュニケーション能力を通常の教室内の授業で習得することは容易でない。

そこで、アジア圏にいて EFL としての英語を学ぶ高校生および大学生同士が国際協働チームを組み、ICT を活用して、文化的・論理的コンフリクトを解決し、一つの課題に向かって問題解決する PBL 国際協働型アクティブ・ラーニング学習デザインを企画・実践してきた。

ここでは、教室内で学習した外国語としての英語を、国境を越えて実際の場で使いながら、文化や考え方の違いの壁を乗り越えて、協働で一つの解決案を導き出し、共同プレゼンテーションをすることで、学びの視点を「何ができるようになるか」へ転換してきた。

具体的には、過去 20 年間、毎年 2 回日本と台湾で実践している PBL 国際協働型英語アクティブ・ラーニング・イベント、すなわち“World Youth Meeting & Asian Student Exchange Program”において、日本・台湾・カンボジア・韓国・中国・インド・ベトナム・タイ・マレーシア・フィリピンの大学・高校生による国際協働チーム（各参加約 25 校、約 300 名）が共通テーマ（例：Sustainable International Cooperation; What does well-being mean for our future? など）について、2～3 か国国際合同チーム（各 5 名：計 10 名で 1 チーム）を編成し、オンラインによる事前ディスカッションと、現地（ここ 2 年間はオンライン）での協働プレゼンテーションを行ってきた。

この国際交流・国際協働・プレゼンテーションイベント（文部科学省・高雄市政府後援）では、PBL による問題解決力・思考力・創造力・コミュニケーション力・組織的行動力が問われ、特に組織的行動力、ならびに、チームワーク力の強さがプレゼンテーションを成功に導くかどうかを決めることになる。

そのことを検証するために、参加者へのアンケート調査を行ってきた（資料 1：自己評定アンケート項目参照）。そこでは、コミュニケーション能力を自己測定するために、次の 8 つのカテゴリー（計 60 問）、1) グループ評価、2) ネットミーティング評価、3) 成功するグループの活動、4) グループメンバー間コミュニケーション、5) 話を聞く能力、6) 非言語伝達能力、7) 総合的なコミュニケーション能力、8) グループによる合意手順からなる調査（Beebe & Masterson, 2012）をおこない、集計、分析、考察を行ってきた。

その結果、参加した学生・生徒は、英語による一方的なコミュニケーション能力は高いが、双方向性が必要であるグループ活動においては、組織的行動力、すなわち「チームワーク力」が必要であることに気づく機会となった。これにはグループの成員がチームの仕事にそそぐ努力、他の成員と協力し合う方法、チームのディスカッションへの貢献の量と質が問われ、例えば、チームのメンバー同士が互いに理解しあっていない場合、共通語である英語による要約、

言い換え、明確化を行うことが極めて重要となる。

さらに、グループ活動においては、積極性、インタラクション力、ICT力、言い換える力に優れたものがグループをリードしていき、集団内での手順、思考、評価ができないものは取り残されていくという知見を得た。

また、自由記述からは、互いの英語力の差を国際協働で克服することが真の国際交流につながること、同国語使用者間でもリングフランカとしての英語で意思疎通をはかることの大切さ、リハーサルによる心のゆとりを持ち、自己の殻から抜け出す勇気をもつことが重要である、などが指摘された（吉田, 2015, 2017, 2018, 2019）。

しかしながら、これらは参加者によるコミュニケーション能力の自己判定であって、そこで実際に使われた共通言語である英語の活用能力については、明らかになっていない。特にグループワークにおけるチームワーク力（協働、情報共有、適切な双方向コミュニケーション、要約・言い換え・明確化）の強化のための英語表現を整理し、それらを実践の場面で教授・活用する必要がある。そのことで、アジアにおけるリングフランカとしての英語による PBL 国際協働型英語アクティブ・ラーニングにおけるチームワーク力の英語力評価指標を開発することができる。

2. 目的

今回、国際協働プロジェクトにおいて活用した自己評定アンケートの8つのカテゴリー（吉田, 2018, 2019; Beebe & Masterson, 2012: 資料1参照）のうち、平均評点が平均より低いカテゴリーであった「グループメンバー間コミュニケーション」、および、「グループによる合意手順」において活用できる英語表現におけるディスコース・マーカ（Swan, 2005; Carter & McCarthy, 2006; Fraser, 1990, 1996, 2009; 松尾・廣瀬・西川, 2015）の提示と教育現場での活用を提案する。

その理由は、松尾、他（2015）が指摘しているように、ディスコース・マーカは「話し手が自分の発話意図を意識的・無意識的に伝える言語的合図として機能し、実践的なコミュニケーションの場においてきわめて重要な位置を占めている」と指摘していることがあげられる。

3. 方法

松尾、他（2015）によるディスコース・マーカの機能的分類（資料2: ディスコース・マーカの機能的分類を参照）にしたがって、上記、「グループメンバー間コミュニケーション」、および、「グループによる合意手順」の各項目に焦点をあて、それらに活用できるディスコース・マーカをあてはめることで、今後のPBL国際協働型英語アクティブ・ラーニングでの活用を行う。

下表は、ディスコース・マーカの機能別英語表現ならびに模式図である。模式図は高校生にも概念が分かりやすいように配慮したものである。

No	模式図	ディスコース・マーカ	英語表現
談話構成機能			
1	○→○+ [△]	付加的機能	and, besides, in addition, moreover
2	○→△	同格的機能-言い換え	I mean (to say), in other words
3	○<1, 2, 3...	同格的機能-例示	for instance [example], mean, thus
4	○≡△	同格的機能-比喩	kind [sort] of, like
5	○<○○	強化機能	above all, actually, after all,
6	○○>○	制限機能	anyway, (or) at least
7	○⇔△	逆接・譲歩機能	actually, but, however, in fact
8	○:△	対照機能	meanwhile, on the other hand.
9	○≐○'	比較・類似機能	in comparison, similarly
10	○<◎	一般化機能	generally speaking, in general,
11	○→□	論理的・推論の結果機能	and, in other words, so, therefore
12	Φ→○	訂・修正機能-とちり訂正	actually, excuse me, I mean
13	○→◎	訂・修正機能-適正語句修正	actually, I mean, in other words
14	◎>○	訂・修正機能-制限的修正	anyway, (or) at least, well
15	○→◎◎	談話開始機能-注意喚起	ah, look, now, oh, okay, so, well
16	[]→○	談話開始機能-話題提示	talking [speaking] of [about],
17	○→1, 2, 3...	談話調整機能-話題順序立て	finally, first (lv), last (ly), next
18	○→△	談話調整機能-話題転換	actually, (and) now, anyway, but
19	○↶●	談話調整機能-話題回帰	anyhow, anyway, now, so
20	○→?	談話展開機能	And? But? Like? Meaning? No?
21	○→○'	談話継続機能	I mean, kind of, like, well, you know
22	○+△+□・◎	談話終結機能-談話要約	in conclusion, in short
23	○, △, □→◇	談話終結機能-談話締めくくり	anyway, okay, so
情報授受・交換機能			
24	○→😊😊😊😊	情報授受・交換-情報受容	ah, oh, uh, yes
25	😊😊😊😊→○	情報授受・交換-新情報発信	actually, huh, no, why
26	○△◇→[○△◇]	情報授受・交換-情報共有化	after all, okay, so, you know what?
27	○△◇>[○]	情報授受・交換-情報焦点化	like
態度・感情表明機能			
28	[A+], A, A→A+	評価明示機能	amazingly. at least, importantly
29	[○]△◇→○	発話様式表示機能	frankly. honestly. seriously
30	[A★], B, C→A★	確信・明白性明示機能	certainly, obviously, of course
31	😊😊😊😊→😊	感情表出機能	actually, ah, but, huh, look, no, well
32	[◎🔍]△◇→◎	情報源明示機能	according to. allegedly. reportedly
対人関係調整機能			
33	○+🌀→◎	敬意・配慮機能	actually, if you don't mind, if you like
34	◎>○	自己防衛機能	at least, I guess [think], in my opinion

4. 結果

これらをアンケート調査の項目（抜粋）にあてはめると次のようになる。それらをもとに、実際の交流の場でこれらを活用してチームワーク力強化に資するコミュニケーションを行うことができる。なお、ここにあげた項目は、比較的対応が明確なもので、これら以外のものについては、さらなる検討を行っていく。

【グループメンバー間コミュニケーション】

<ul style="list-style-type: none"> 項目 28. グループメンバー間で、正確にコミュニケーションがとれた。 項目 30. グループメンバー間で、誤解がほとんどなかった。 <p>○→△ ○<1, 2, 3... ○≡△</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2. I mean (to say), in other words 3. for instance [example], mean, thus 4. kind [sort] of, like
<ul style="list-style-type: none"> 項目 31. グループメンバーは、誤解された時、意味を再度明確にし、正確な伝達に努めた。 <p>Φ→○ ○→◎ ◎>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 12. actually, excuse me, I mean 13. actually, I mean, in fact, in other words 14. anyway, (or) at least, well

【グループによる合意手順】

<ul style="list-style-type: none"> 項目 52. 私は、グループが目標を見失ったり、逸脱したりすると、原点に戻るよう提案した。 <p>○ ← ●</p>	<ul style="list-style-type: none"> 19. anyhow, anyway, now, so
<ul style="list-style-type: none"> 項目 53. 私は、グループが選択肢を見出すよう、解決策、提言、提案を出した。 <p>○→☹ [] →○ ○→△</p> <p>☺☹☹→○ ○△◇→[○△◇]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 15. ah, look, now, oh, okay, so, well 16. talking [speaking] of [about] 18. actually, (and) now, anyway, but 25. actually, huh, no, why 26. after all, okay, so, you know what?
<ul style="list-style-type: none"> 項目 55. 私は、グループのメンバー同士が互いに理解しあっていない場合、要約、言い換え、明確化を行った。 <p>○→△ ○+△+□→◎ [A★], B, C→A★</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2. I mean (to say), in other words 22. in conclusion, in short 30. certainly, obviously, of course, perhaps
<ul style="list-style-type: none"> 項目 56. 私は、グループのメンバーが合意できる点を発見し、グループ全体に口答で伝えた。 <p>○△◇→ [○△◇]</p>	<ul style="list-style-type: none"> 26. after all huh, okay, so, you know what?
<ul style="list-style-type: none"> 項目 58. 私は、グループが行き詰まり、対立が激しくなったとき、全メンバーが議論に参加するよう促した。 項目 60. 私は、グループが合意に達することができないとき、様々なアイデアと選択肢を広げられるよう促した。 <p>○ : △ ○≡○' ○<◎ ○→□</p> <p>○→☹ [] →○ ○→△ ○→?</p> <p>☺☹☹→○</p>	<ul style="list-style-type: none"> 8. meanwhile, on the other hand. 9. in comparison, similarly 10. generally speaking, in general 11. and, in other words. so, therefore 15. ah, look, now, oh, okay, so, well 16. talking [speaking] of [about] 18. actually, (and) now, anyway, but 20. And?, But?, Like?, Meaning?, No? 25. actually, huh, no, why

5. おわりに

今回は、全60項目のうち、比較的 average 評点が平均より低いカテゴリーであった「グループメンバー間コミュニケーション」、および、「グループによる合意手順」において活用できる英語表現のディスコース・マーカーの抽出を行ったものである。

今後、引き続き PBL 国際協働型アクティブ・ラーニング (WYM & ASEP) の事前準備段階における国際協働グループワークにおいて、ここで示したディスコース・マーカーを活用することで、チームワーク力に必要なリンガフランカとしての英語力評価指標の開発の一助となすことができる。

本研究の一部は、日本学術振興会基盤研究 (C) 課題番号 21K00693 「PBL 国際協働型英語アクティブ・ラーニングにおけるチームワーク力の評価指標の開発」の助成を受けたものである。

参考文献

- Beebe, S., Masterson, J. (2012). *Communicating in small groups*, Boston, Pearson Education LTD., USA.
- Carter R., McCarthy, M. (2006). *Cambridge Grammar of English*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Fraser, B. (1990). "Topic Orientation Markers", *Journal of Pragmatics*, 41, pp. 892-98.
- Hsieh, L., and Yoshida, S. (2015). "Kansai-Cheng Shiu University COIL project ~A COIL-Enhanced Pilot Course~", *Proceedings for Global Education Workshop and KU-COIL Conference*, pp. 51-54.
- 影戸誠 (2021). Kageto Makoto's Home Page [www.kageto.jp] (2021.6.9 入手)
- 松尾文子・廣瀬浩三・西川真由美 (2015). 『英語談話標識用法辞典』, 研究社, 東京.
- Swan, M. (2005). *Practical English Usage*, Oxford University Press, London.
- 吉田信介 (2015). 「アジアをめぐる2つの国際協働プロジェクトと英語教育」『学習情報研究』243号, 40-43頁.
- 吉田信介 (2017). 「国際協働プロジェクト ASEP & WYM の実践と課題」『関西大学高等教育研究』第8号, 103-109頁.
- 吉田信介 (2018). 「国際協働プロジェクトにおけるグループ・ダイナミクス」『関西大学高等教育研究』第9号, 167-176頁.
- 吉田信介 (2019). 「国際協働プロジェクトにおけるグループ活動～自己評定アンケートによる調査結果～」『関西大学高等教育研究』第10号, 153-162頁.

【資料1】 自己評定アンケート項目（Beebe & Masterson, 2012 を筆者が翻訳）

グループ評価

1. 私達のグループは明確にその目標と任務を設定していた。各グループメンバーは、実行すべき活動と作品を完成させる責任を常に意識していた。そのため、例えば活動目標が「文字」で書き留められ、議論の間、常にそれを意識していた。
2. 私達のグループはよく組織化されていた。各グループメンバーは、自分の役割や課題が何であるかを知っていた。結果第一とし、無関係な事に時間を費やすことはなかった。
3. 私達のグループは有能で熟練したメンバーで構成されていた。各グループメンバーは、目的を果たすことができる理想的な力を持っていた。
4. 私達のグループは意思統一されていた。全員、共通目標を達成するよう心がけていた。私達は、団結していた。グループ全員による意見の一致の重要性について話していた。
5. 私達のグループには、互いに相手を受け入れる気風があった。私達は互いに称賛しあった。私達は衝突を肯定的・協力的にとらえていた。私達はうまく協力しあっていた。
6. 私達のグループは、高品質の作品を完成させる理想をもっていた。私達は高品質な活動をする重要性について話していた。良い活動するのは全グループメンバーにとって重要であった。
7. 私達が行った良い活動は称賛された。私達はお互いに称賛し合い、それは各グループ内で有意義な方法で称賛された。私達が仕上げた高品質な作品について、支持され、認知された。
8. 私達のグループには、活動を推進する有能なリーダーがいた。私達のリーダーは熟練していて知識も豊富であった。リーダーは他のグループメンバーのニーズに敏感であった。

ネットミーティング評価

9. 私達のグループは、最初、ネット上での意思決定の手順とルールを決めた。
10. 私達のグループは、頻繁なメッセージをグループ全体に送った。
11. 私達のグループは、頻繁なメッセージを個別のメンバーに送った。
12. 私達のグループは、大きな活動をより小さい活動に分割した。
13. 私達のグループは、大きな活動をより小さい活動に分割し、メンバーが分担して作業した。
14. 私達のグループは、お互いにデジタルメッセージを活用した。
15. 私達のグループは、他メンバーに理解されるよう、明確、簡潔なメッセージを送った。
16. 私達のグループは、各作業の締め切りを設定した。
17. 私達のグループは、各作業の締め切りを守った。
18. 私達のグループは、常につながっている状態を保つため、デジタル機器の特性を理解し、適切に活用した。

成功するグループの活動

19. 私達は、活動を組織化し始める前に、各メンバーと知り合うのに時間を費やした。

20. 私達は、メールアドレスなど個人情報を交換した。
21. 私達は、目標を文字化し、全メンバーと共有した。
22. 私達は、目的を果たすのに必要な情報を集めるための計画を立てた。
23. 私達は、情報を十分分析した上で、問題の解決策を発見し、集団的決定を行った。
24. 私達は、活動を組織化するために、段階的な構造化されたプランを開発した。
25. 私達は、集めた情報を全メンバーと共有した。
26. 私達は、論理と理由付けを十分検討した上で、解決策の組立、または意思決定を行った。
27. 私達は、メンバーの積極的貢献について、言葉や表情により明白な称賛を示した。

グループメンバー間コミュニケーション

28. グループメンバー間で、正確にコミュニケーションがとれた。
29. グループメンバー間で、適切な情報量を伝えることができた。
30. グループメンバー間で、誤解がほとんどなかった。
31. グループメンバーは、誤解発生時、意味を再度明確にし、正確な伝達に努めた。
32. グループメンバーは、IT 技術 (LINE など) で適切な方法でコミュニケーションをとった。
33. グループメンバーは、適切な頻度で他のメンバーとコミュニケーションをとった。

話を聞く能力

34. グループメンバーは、他メンバーの聞くスタイルに合わせてコミュニケーションをとった。
35. グループメンバーは、効率的にお互いの言うことを聞いた。
36. グループメンバーは、他のメンバーの意図を正確に理解したことを示すため、自分の言葉で適切かつ正確に言い換えた。

非言語伝達能力

37. グループメンバーは、適切なジェスチャーを使用することによって、他のメンバーの関心を引き、サポートを得た。
38. グループメンバーは、適切な顔の表情を使用することによって、他のメンバーの関心を引き、サポートを得た。
39. グループメンバーは、適切な声の表現を変えることによって、他のメンバーの関心を引き、サポートを得た。
40. グループメンバーは、適切な空間と距離をとって他のメンバーとコミュニケーションをとった。
41. グループメンバーは、適切な座席配置で、開放的、相互交流ができるようにした。
42. グループメンバーは、他のメンバーの非言語的行動をよみとり、理解できた。

総合的なコミュニケーション能力

43. 全体的に見て、グループメンバーは、正確にメンバーとコミュニケーションがとれた。
44. 全体的に見て、グループメンバーは、適切にメンバーとコミュニケーションがとれた。

グループの集団思考

45. グループメンバーは、根拠を吟味し、論理的思考を行うよう、他のメンバーを励まし、ほめた。
46. グループメンバーは、定期的に、正確で質の高い決定をしているかどうか自問自答した。
47. グループメンバーは、時には間違ったり、不正確な結論に達したりしたことを自ら認めた。
48. グループメンバーは、他メンバーに同意するよう圧力をかけずに意思決定を行った。
49. グループメンバーは、グループの決定が、メンバーによって支持され続けていることを定期的にチェックした。
50. グループメンバーは、ありのままの意見を述べ、リーダー、(いわゆる) 有力者、声の大きいメンバーに容易に同意しなかった。

グループによる合意手順

51. 私は、グループが合意形成の過程と手順をよりよく意識できるよう、「どう議論するかについて議論」した。
52. 私は、グループが目標を見失ったり、逸脱したりすると、原点に戻るよう提案した。
53. 私は、グループが選択肢を見出すよう、解決策、提言、提案を出した。
54. 私は、一貫してI (私) でなく、we (私達) を用い、協働作業の意識を高めた。
55. 私は、グループのメンバー同士が互いに理解しあっていない場合、要約、言い換え、明確化を行った。
56. 私は、グループのメンバーが合意できる点を発見し、グループ全体に口答で伝えた。
57. 私は、メンバー同士の勝ち負けではなく、全員勝ちになる方法を探した。
58. 私は、グループが行き詰まり、対立が激しくなったとき、全メンバーが議論に参加するよう促した。
59. 私は、ただ対立を避けるために意見をすぐに変えず、むしろグループが行き詰った際、問題を解決しようとした。
60. 私は、グループが合意に達することができないとき、様々なアイデアと選択肢を広げられるよう促した。

【資料2】 ディスコース・マーカ―の機能的分類 (松尾, 他, 2015 より抜粋)

I. 談話構成機能

1-1. 先行文脈あるいは後続する文や発話と関わって、談話構成を合図する機能

(1) 【付加的機能】 前言に発話内容を付け加えることを合図する。

and, besides, further (more), in addition, moreover, plus

(2) 【同格的機能】

1) 別の言い方で言い換える [言い換え機能]、

1) I mean (to say), in other words, .

2) 具体例を挙げる [例示機能]、

2) for instance [example], / mean, thus, .

3) 比喩的な具体例を述べる [比喩機能] がある。

3) kind [sort] of, like, .

(3) 【強化機能】 前言よりさらに一歩進めた陳述をすることを合図する。

above all, actually, after all, in (actual) fact, I mean. of course, .

(4) 【制限機能】 最小限言えることを合図する。

anyway, (or) at least, .

(5) 【逆接・譲歩機能】 逆接・反対・矛盾・譲歩的な内容を述べることを合図する。

actually, (and) yet, but, however, in fact, nevertheless, nonetheless, of course, on the contrary, still, though, .

(6) 【対照機能】 対照的な内容を述べることを合図する。

meanwhile, on the other hand. .

(7) 【比較・類似機能】 比較や同類のことを述べることを合図する。

in comparison, similarly, .

(8) 【一般化機能】 一般化を図ることを合図する。

broadly [generally] speaking, in general, .

(9) 【論理的・推論の結果機能】 先行文脈から導き出せる論理的・推論的結論を述べることを合図する。

and, in other words. so, then, therefore, thus, .

(10) 【訂正・修正機能】

(1) 非意図的な誤りを訂正する [とちり訂正機能]

(1) actually, excuse me, I mean. no, .

(2) より適切な語句に変更する [適正語句修正機能]

(2) actually, I mean, in fact, in other words, (or) possibly, (or) rather, really.

(3) 前言に対する適用範囲や数値的制限を加える [制限的修正機能] がある。

(3) anyway, (or) at least, well, .

1-2. より幅広い文脈と関わって、談話構成を合図する機能

(11) 【談話開始機能】

(1) 聞き手の注意を喚起する [注意喚起機能]

(1) ah, look, now, oh, okay, so, well, .

(2) 話題を提示する [話題提示機能] がある。

(2) talking [speaking] of [about], .

(12) 【談話調整機能】

(1) 話題を提示する順序を合図する [話題順序立て機能]、

(1) finally, first (lv), last (ly), next, then, .

(2) 別の話題を提示する [話題転換機能]

(2) actually, (and) now, anyhow, anyway, but, by the way, however, in fact, look, oh, okay, so, well, .

(3) 脱線した話題から本題に戻る [話題回帰機能] がある。

(3) anyhow, anyway, now, so, .

(13) 【談話展開機能】 聞き手にさらなる情報を求めることを合図する。通例疑問形。

And?, But?, Like?, Meaning?, No?, Oh?, So?, Well?, Which is?, Yeah?, Yes? .

(14) 【談話継続機能】 時間かせぎをして、談話を継続する意思があることを合図する。それによつて、話し手が発言権を維持する意思があることが示される。

I mean. kind [sort] of, like, uh, well, you know, .

(15) 【談話終結機能】

(1) これまで述べてきたことを要約する [談話要約機能]、

(1) in conclusion, in short, .

(2) 談話の締めくくりを合図する [談話締めくくり機能] がある。

(2) anyway, okay, so, .

II. 情報授受・交換機能

談話標識は、話し手が情報を受け取ったことや、新旧いずれの情報を伝達しようとしているか、情報を聞き手と共有したいかなどを合図する機能を持つ。

(16) 【情報授受・交換機能】

(1) 情報の受容と情報に対する話し手の態度を表す [情報受容機能]、

(1) ah, oh, uh, yes, .

(2) どのような情報をどのような態度で発信しようとしているかを表す [情報発信機能]

(ア) 新情報 (多くの場合は、聞き手にとって予想外の情報) を伝える [新情報発信機能]、

(2-ア) actually, huh, no, why, .

- (イ) 聞き手と情報の共有化を望むことを合図する [情報共有化機能]、
(2-イ) after all huh(?), okay(?), so, you know, you know what?, you see, .
(ウ) 情報の一部に焦点を当てて伝える [情報焦点化機能] がある。
(2-ウ) like, .

III. 態度・感情表明機能

談話標識は、話し手がこれからどのようなスタンス (態度・感情・様式・確信度・明白性) で陳述するのかを合図する機能を持つ。いわゆる文副詞と称されるものが大半を占める。

- (17) 【評価明示機能】 後続する命題内容に対する話し手の評価を表す。
amazingly. at least, importantly, (un)fortunately
(18) 【発話様式表示機能】 後続する命題内容に対する発話様式を合図。
frankly. honestly. seriously, .
(19) 【確信・明白性明示機能】 後続する命題内容に対する確信度・明白性を合図。
certainly, obviously, of course, perhaps, .
(20) 【感情表出機能】 驚き、喜び、安堵、苛立ち、嫌悪、躊躇など話し手の感情合図
actually, ah, but, huh, look, no, oh, okay, well, why, you know what, .
(21) 【情報源明示機能】 伝達する情報の出所を合図する。
according to. allegedly. reportedly, .

IV. 対人関係調整機能

談話標識は、会話を円滑に進めるために、話し手と聞き手の人間関係を調整する機能を持つ。しばしば、逆接やためらいを合図する談話標識が、この機能を果たす。

- (22) 【敬意・配慮機能】 会話で、聞き手に対する敬意や配慮を表し、丁寧表現となる。
actually, if you don't mind, if you like. if you please. well. .
(23) 【自己防衛機能】 自己防衛のために、ためらいや控えめな態度を表す機能を持つ。
at least, I guess [think], afraid, in my view [opinion], kind of, really, well.